

科目名	精神看護方法Ⅱ(看護実践) Psychiatric Nursing Ⅱ		担当教員 (研究室番号)	長南 幸恵 (401) 荒木 学 (105)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	3年次前期	科目区分	専門科目・広域看護学		選択区分	必修	単位数(時間)	1(30)	授業形態	講義・演習	科目等履修生	否
											オープンクラス	否
科目目的	本科目は、精神科看護における患者－看護師関係の理論及び治療的コミュニケーション技術について理解すること、精神障がい者に対する精神症状及びセルフケアのアセスメント技術、看護過程の展開について理解し、効果的な看護支援方策について考察することを目的としている。											
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	F 人々の健康的な生活を支援するために、必要な情報を様々な方法により収集する技能を身につけている。(技能・表現)										
	関連するDP	D 様々な職種との連携において、看護専門職としての役割を果たすためのコミュニケーション能力を身につけている。(技能・表現) G 身につけた知識を基盤に、収集した情報を科学的・論理的に分析し、人々の健康に関する課題を把握する能力を身につけている。(思考・判断)										
到達目標	1. 精神看護におけるケアの原則や方法、患者－看護師関係を理解し、必要なコミュニケーションについて述べることができる。 2. 精神疾患のある人の理解するための知識と技術を述べるができる。 3. 精神疾患のある人の事例を用いた看護過程を展開できる。 4. 精神疾患のある人の地域での生活への支援と自立について述べるができる。											
成績評価方法(基準)		①課題(15%)、②看護過程(35%)、③筆記試験(35%)④学修態度・グループ活動貢献度(15%) 看護過程の提出遅延は減点となります。										
再試験の有無と基準等		②看護過程および③筆記試験の各評価が6割を満たしていない者が再試申請をした場合に実施します。①課題評価は再試再試対象外です。										
教科書		・精神看護学Ⅰ 精神保健・多職種のつながり(改訂第3版) 南江堂 2022. ・精神看護学Ⅱ 臨床で活かすケア(改訂第3版)南江堂 2022. ・パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護 第2版, 照林社 2015.										
参考書等		・授業時に随時紹介										
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待		既習の精神看護学の知識を更に発展させ、実践への準備性を高めます。ケアの原則や方法、患者-看護師関係を理論をロールプレイや看護過程の作成を通して学びましょう。精神科看護に必要なとされる技術を身につけることによって自分自身を治療道具として活用できるようになります、しっかり演習して習得しましょう。履修者の主体的で積極的な参加を期待しています。										
備考		精神看護学実習の先修条件です。										
回	学習項目				学習内容				主担当教員	授業方法		
1回	オリエンテーション ケアの人間関係				ケアの原則・方法について学ぶ 治療的な患者-看護師関係について学ぶ。				長南	講義		
2回	コミュニケーション演習①				ロールプレイを通して精神症状のある患者のコミュニケーションの実際とアセスメントに必要な情報収集を行う。				荒木	演習		
3回	コミュニケーション演習②				記述したプロセスレコードを用いて、自分の思考、感情、行動を振り返る。				荒木	演習		
4回	対象を理解するための方法①				バイオ・サイコ・ソーシャルモデルについて理解する。 生物学的側面から脳機能や検査を理解する。				長南	演習		
5回	対象を理解するための方法②				生物学的側面にアプローチする治療と支援について学ぶ。				長南	講義		
6回	対象を理解するための方法③				心理学的・社会的側面からアプローチする治療と支援について学ぶ。(集団療法、認知行動療法、SST、心理教育、作業療法、レクリエーション療法、園芸療法・リラクゼーション等)				荒木	講義		
7回	精神看護におけるアセスメント				アセスメントの特徴や用いられる主な理論について学ぶ。				長南	講義		
8回	事例(急性期・慢性期)の看護過程展開① グループワーク				アセスメントに必要な情報や記録方法について学び、事例の情報整理を行う。				荒木	演習		
9回	事例(急性期・慢性期)の看護過程展開② グループワーク				情報整理、アセスメントを行う。				荒木	演習		
10回	事例(急性期・慢性期)の看護過程展開③ グループワーク				アセスメントを統合し、看護問題を特定する。 疑似カンファレンスを通して、看護問題の妥当性を検討する。				荒木	演習		

回	学習項目	学習内容	主担当 教 員	授業 方法
11回	事例（急性期・慢性期）の看護過程展開④	特定された看護上の問題をもとにケアプランを作成する。	荒木	演習
12回	事例（急性期・慢性期）の看護過程展開⑤	行動計画表の記載方法等実践に必要な知識を学び、準備性を高める。	荒木	演習
13回	安全管理に関する看護	自傷、自殺防止への援助について学ぶ 身体拘束に伴う看護について学ぶ 攻撃的行動への介入、衝動性のコントロールなどについて学ぶ。 陽性症状のある患者に対する対応について学ぶ。	荒木	講義
14回	精神疾患のある人の地域における生活への移行と自立①	地域で生活する精神疾患のある人の実際を理解し、地域における看護師の役割について学ぶ。	長南	講義
15回	精神疾患のある人の地域における生活への移行と自立②	精神疾患のある人の地域での生活を支えるケアシステムについて学ぶ。	長南	講義

学 習 課 題
1回目課題（事前）：教科書Ⅱ p.130-133を読了。精神看護方法Ⅰで使用した教科書および資料を復習する 2回目課題（事前）：教科書Ⅱ p.139-151を読了。 3回目課題（事前）：教科書Ⅱ p.151-155を読了。統合失調症、うつ病について復習しておく。 （事後）：ロールプレイ内容をプロセスレコードに記入し、次回授業開始時に提出する。 4回目課題（事前）：教科書Ⅱ p.35-44、163-174を読了。 5回目課題（事前）：教科書Ⅱ p.187-226を読了。 6回目課題（事前）：教科書Ⅱ p.227-261、155-158を読了。 7回目課題（事前）：教科書Ⅱ p.109-138を読了。 8回目課題（事前）：教科書Ⅱ p.2-33、p.47-57、p.118-124を読了。 （事後）：看護過程の生物学的側面、心理学的側面、社会的側面を記入する。 9回目課題（事前）：教科書Ⅱ p.2-33、p.47-57を読了。 （事後）：看護過程の普遍的アセスメント6項目まで記入する。 10回目課題（事後）：全体像をまとめ、看護問題を抽出し、特定する。 11回目課題（事後）：看護問題についてケアプランを作成する。次回授業時までに看護過程・ケアプランを記入しておく。 12回目課題（事後）：作成した看護過程・ケアプラン・行動計画表を授業終了時提出する。 13回目課題（事前）：教科書Ⅱ p.295-306を読了。 14回目課題（事前）：教科書Ⅱ p.261-267を読了。 15回目課題（事前）：教科書Ⅱ p.283-293を読了。

実務経験を活かした教育の取組
・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。